

□ 調査目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について】

▼ 教科に関する調査より ▼

調査対象人数が少ないため、全体的な傾向や経年変化について一概には言えませんが、本校の調査結果の概要は以下の通りです。

国 語

- 「書くこと」の領域では、全国と比べて正答率が高い問題がありました。特に、目的に応じて集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする力を問う設問や、読み手の立場に立って文章を整える力を問う設問で、高い正答率を示しました。
- 「知識及び技能」のうち「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域では、事象や行為を表す語彙の理解を問う設問で全国平均を下回りました。今後、言葉に関する力の向上が課題となります。

数 学

- 計算処理や基本的な知識・技能については、一定の定着が見られます。数量を文字式で表す力を問う設問では、全国平均を上回る正答率でした。また、「数学の勉強が得意」「数学が好き」と答えるなど、数学に対して肯定的な意識を持つ生徒の割合が全国平均より高くなっています。
- 一方で、図形領域における理解や論理的な説明力、思考力・判断力を要する問題への取り組み経験については全国平均を下回っています。今後は、図形領域の基本事項の定着を図るとともに、証明問題を段階的に練習したり、記述式問題を授業や小テストに取り入れることで、論理的な表現力の育成が必要です。

理 科

- 普段の授業で実験や観察を重視した学習に取り組んでいる成果として、「知識・技能」の観点における実験技能を問う設問では、全国平均を大きく上回る正答率でした。
- 授業や家庭学習には真面目に取り組めているものの、知識の定着・活用を問う設問では全国平均を下回っています。学習内容の定着と活用が今後の課題です。

▼ 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査より ▼

強み・弱み

少人数教育の利点を生かし、すべての生徒に丁寧な支援を行うことを目指した教育を推進しています。個に応じた手厚い指導や声かけを行っていることが、調査結果から本校の強みとして表れています。

一方で、家庭での生活リズムや学習習慣に課題がある生徒がいること、また授業での学びが将来につながっていると実感できていない生徒がいることが、本校の課題として明らかになりました。

【強み】 優れている	
●学校に行くのが楽しいと思っている	●先生が自分の良いところをほめてくれる
●これまでの学校生活の中で、自然の中で遊んだり自然観察をした経験がある	
●先生が授業やテストで間違えたところや理解していないところを、わかるまで教えてくれる	
●インターネットを使って情報を収集することができる	
【弱み】 課題がある	
●寝る時間が決まっていない生徒がいる	●普段、家で本や新聞を読まない生徒がいる
●授業で学んだ内容が社会に出たときに役立つと感じていない生徒がいる	
●平日の家庭学習時間が少ない生徒がいる	

【指導の充実に向けて】

本校では、日頃より授業改善に向けた取組を進めています。授業では「めあて・まとめ・振り返り・取組時間等」を視覚化し、すべての生徒に対して丁寧な支援を行うことで、分かりやすく、誰にとっても学びやすいユニバーサルデザインの授業を目指しています。今年度の学力・学習状況調査の結果を踏まえ、以下の取組を通して学習指導の充実を図り、学力の向上を目指します。

- ①協働的な学びの推進：グループでの学習や異学年との合同授業を通して、親和的な人間関係を育むとともに、自分の考えを相手に分かりやすく伝えたり、他者の意見を取り入れて自分の考えを深めたり広げたりする力を育成します。
- ②学習の振り返りの工夫：生徒同士が学びを共有し合えるよう、「めあて」「教材・題材」「時間」「学習活動」の設定を工夫し、振り返りを通じた交流を促進します。
- ③生活や他教科との関連づけ：日常生活や他教科とのつながりを意識した課題を設定し、学習内容を生活の中で活かせるようにします。
- ④地域とのつながりの強化：地域との交流の機会を増やし、地域や社会をよりよくするために自分たちにできることを考え、実践する力を育てます。
- ⑤読書活動の充実：図書委員による定期的な読み聞かせの実施や、新しく購入した図書の廊下展示、学級文庫の充実などを通して、生徒が本に親しみ、読書に触れる機会を増やします。